

プレスリリース

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

平成 21 年 8 月 11 日

報道関係各位

駿河湾の地震(M6.5)の前兆とらえる ～予測首都圏大地震とは異なる地震が発生～

このたびの駿河湾の地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の早期の復興を心より祈念いたします。

NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO(理事長：弘原海 清(わだつみ・きよし)=大阪市立大学名誉教授、本部：兵庫県川西市)では、大気イオン濃度の上昇が大地震の有力な前兆現象と考え、大気イオン濃度測定器を全国 6 か所に配置し、測定を続けています。

8 月 11 日 05 時 07 分ごろに駿河湾で発生した M6.5 の地震では、弊会の測定ネットワークのうち、最寄りの静岡・沼津測定点(富士通株式会社沼津工場)で約 3 日前の 8 月 8 日と 9 日に、前兆と思われる大気イオン濃度異常を記録しました。

前兆現象の詳細につきましては、次ページ以降の解説をご覧ください。

報道関係各位には、ご多忙中恐縮ではありますが、本件の周知ならびに取材を賜れば幸いです。

弊会の詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.e-pisco.jp/>

また、このプレスリリースは <http://www.e-pisco.jp/npo/pr.html> からカラーでご覧になれます。

【お願い】掲載後、記事または VTR を弊社大阪事務所まで郵送くださいますよう、お願い申し上げます。

本リリースの問い合わせ先(本部)

理事長 弘原海 清

Tel/Fax : 0727-92-0298 E-mail : npo@e-pisco.jp

記事送付先(大阪事務所)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1 丁目 4-21

日宝肥後橋中央ビル 304 号

Tel/Fax : 06-6444-3781

【解説】

A. 8月11日05時07分 駿河湾の地震(M6.5)の前兆

静岡・沼津測定点は今回の地震の震央から 51km 離れたところに位置しています。沼津測定点では、8日09時頃から18時頃まで、9日09時頃から16時頃までの2度にわたって、測定可能限界を超える大気イオン濃度異常を記録しました。これらの異常値は、今回の駿河湾の地震の前兆と判断しています。

また、この両日、神奈川・厚木測定点(震央距離：109km)や千葉・南房総測定点(震央距離：134km)でも異常値が記録されていますが、以前より予測している首都圏における大地震の前兆との分離が困難です(ただし、厚木測定点は8日朝以降停止)。

弊会では日頃から積極的な地震予測に取り組んでおりますが、大気イオン濃度異常の発生から地震発生までの期間が短かったことや、5月末以降発表している首都圏での大地震予測に絡む前兆現象との区別が困難で、前兆現象は捉えていたものの、結果的に予測することができなかったことを心苦しく思います。

気象庁の東海地震判定会も「東海地震に直結せず」との判断を下したように、弊会の大気イオン濃度変化からも、近い将来、駿河湾で大規模な地震が発生する兆候はありません。

B. 8月9日19時55分 東海道南方沖の地震(M6.8)の前兆なし

9日19時55分、東海道南方沖の深さ333kmでM6.8の地震が発生し、東北地方から関東地方にかけて震度4を記録しました。深発地震特有の異常震域がみられた地震ですが、沈み込む太平洋プレート内部の深部で、海洋における発生であったため、大きな規模であっても大気イオンが出にくい地震であったと考えられます。よって、この地震の前兆としての大気イオンは発生しなかったと判断しています。

また、発震機構の違いなどから、この地震が東海地震など他の地震活動に与える影響はないものと考えられます。

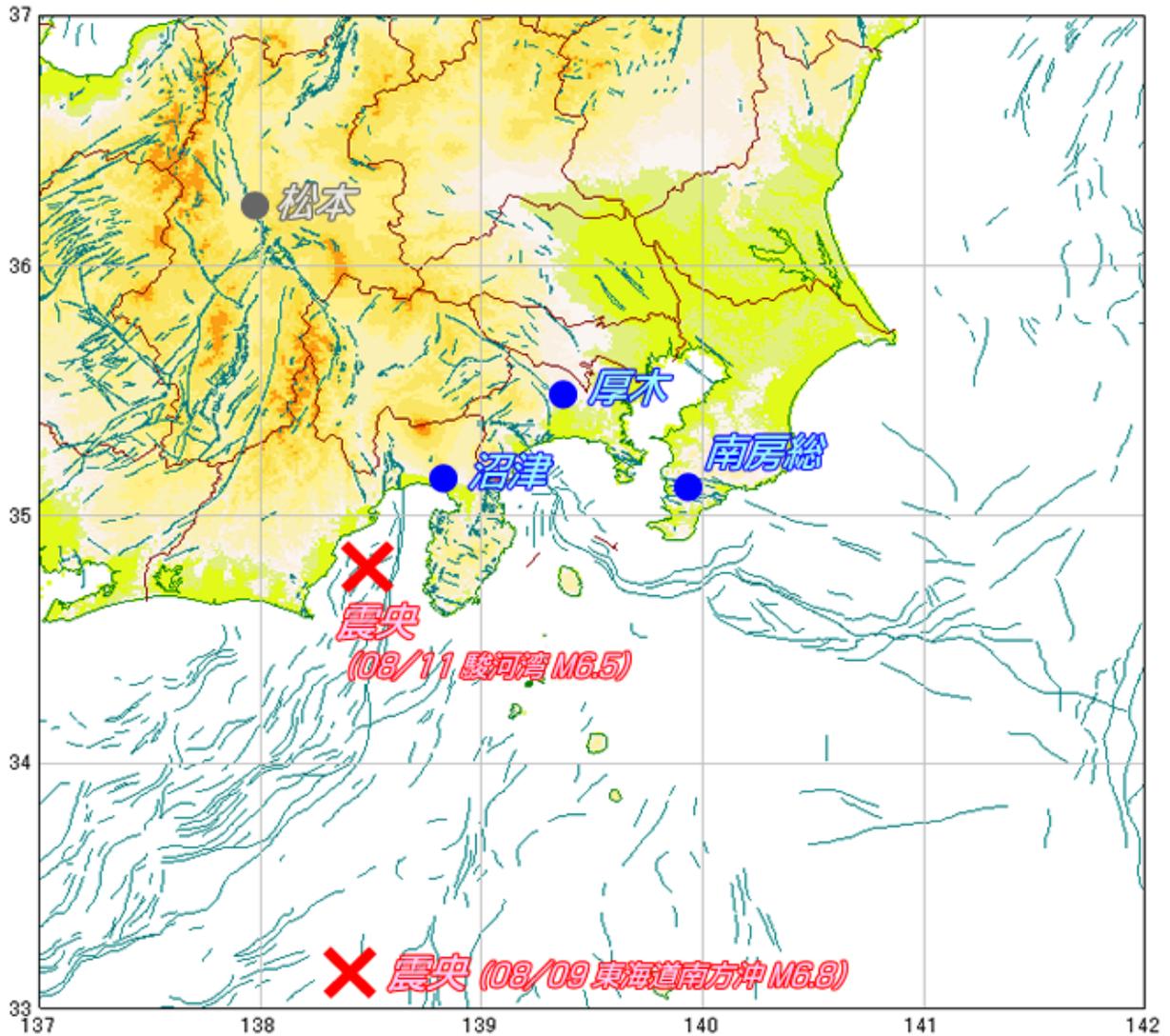
C. 首都圏におけるM7～8規模の地震予測に変更なし

弊会では5月末以降の南房総、厚木、沼津の各測定点での大気イオン濃度異常をもとに、8月末～9月末の間に、首都圏南部(房総半島～丹沢山地・相模湾)でM7～8程度の地震が発生すると予測しています。今回の駿河湾の地震とは震源域が異なるうえ、前兆現象も明確に分離できたことから、今回の地震発生にともなう、首都圏での地震予測に変更はありません。

よって、首都圏にお住まいの国民の皆様には、引き続き、地震への備えを怠らない

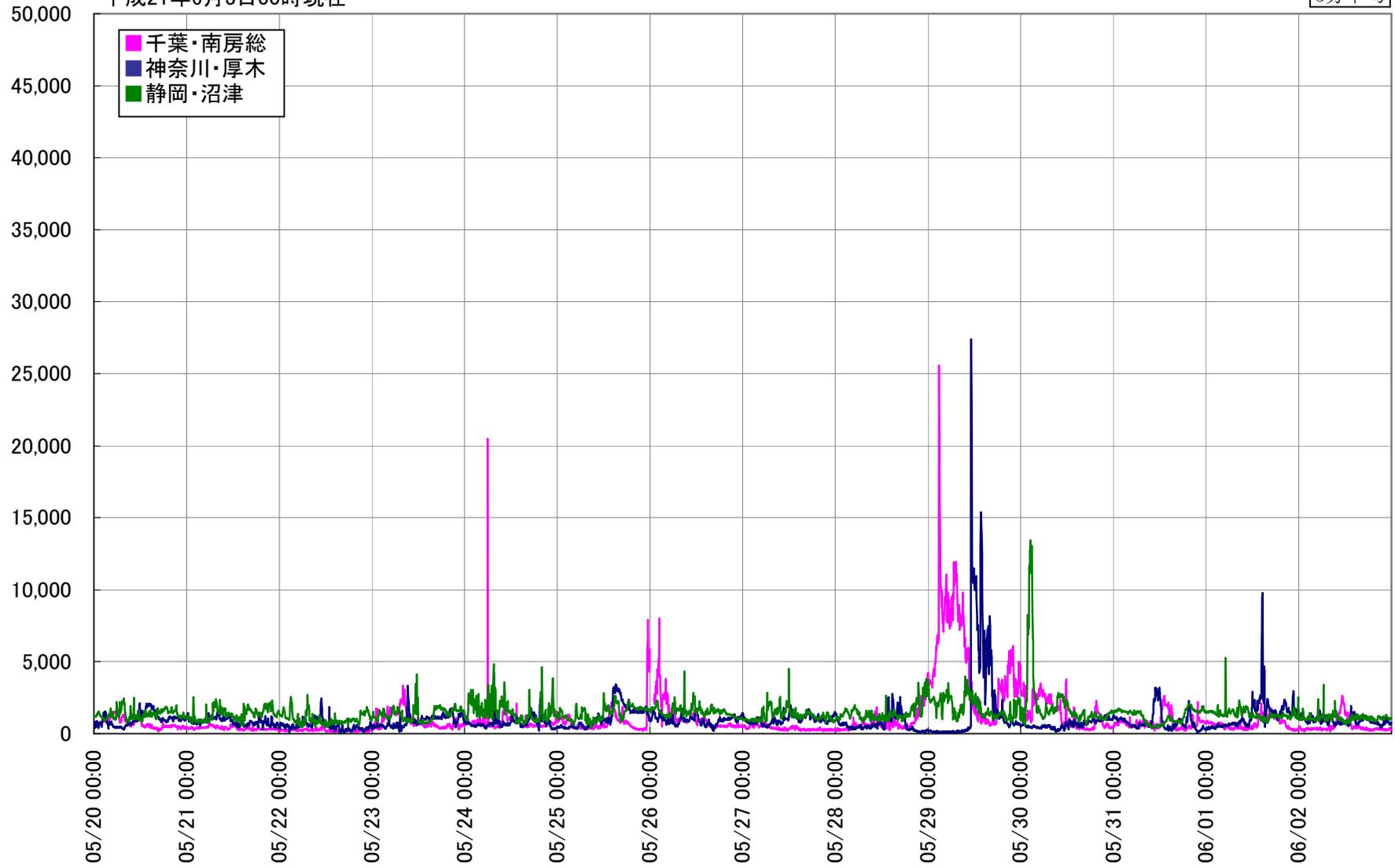
ようお願い致します。また、大地震の前には動植物や電気機器等に異常現象(宏観異常)が発生すると言われていています。当該地域の皆様には、弊社ホームページから宏観異常をご報告くださいますようお願い申し上げます。

なお、これまでの予測発表の経過ならびに今後の追加情報につきましては、弊社ホームページをご参照ください。



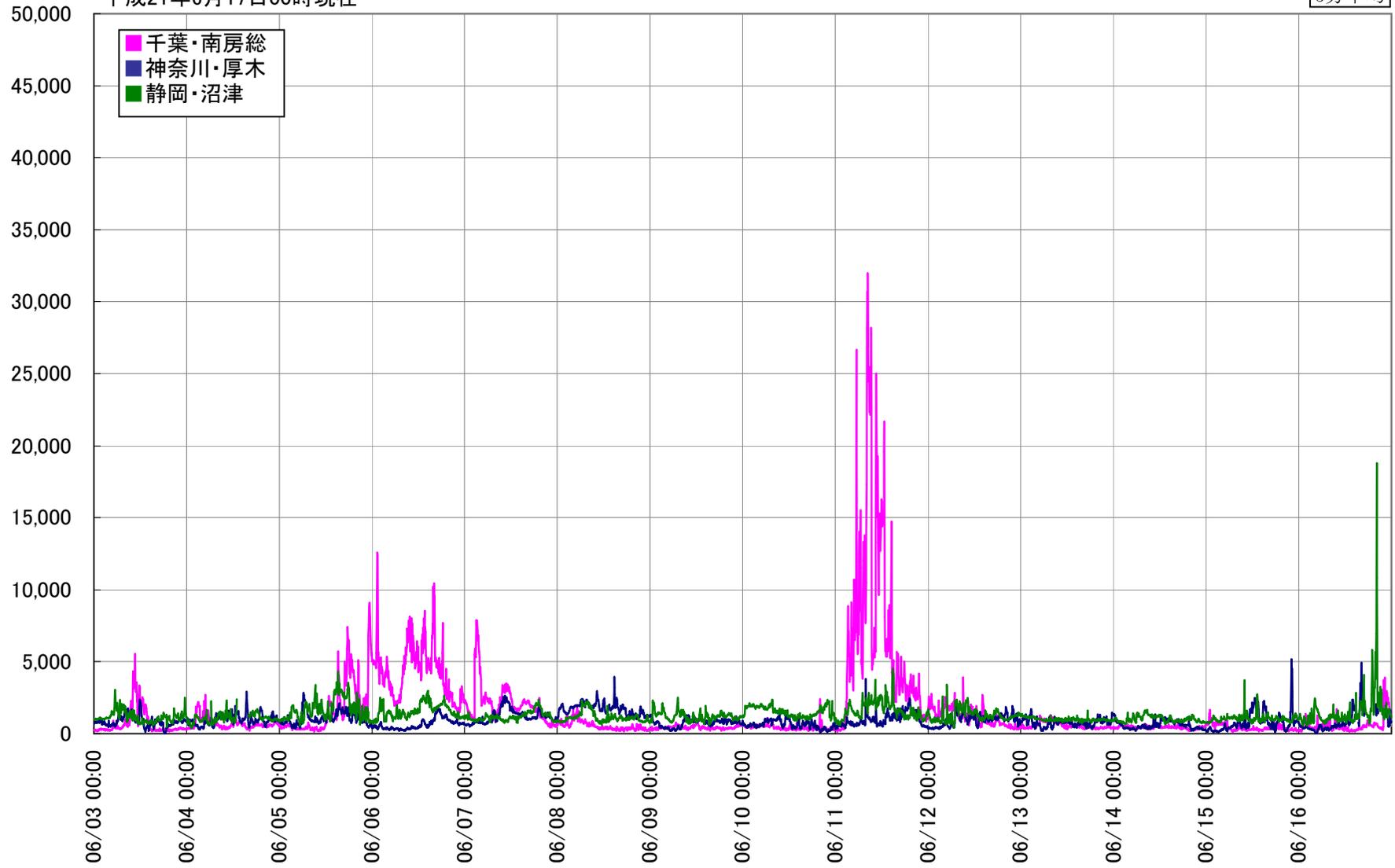
平成21年6月3日00時現在

5分平均



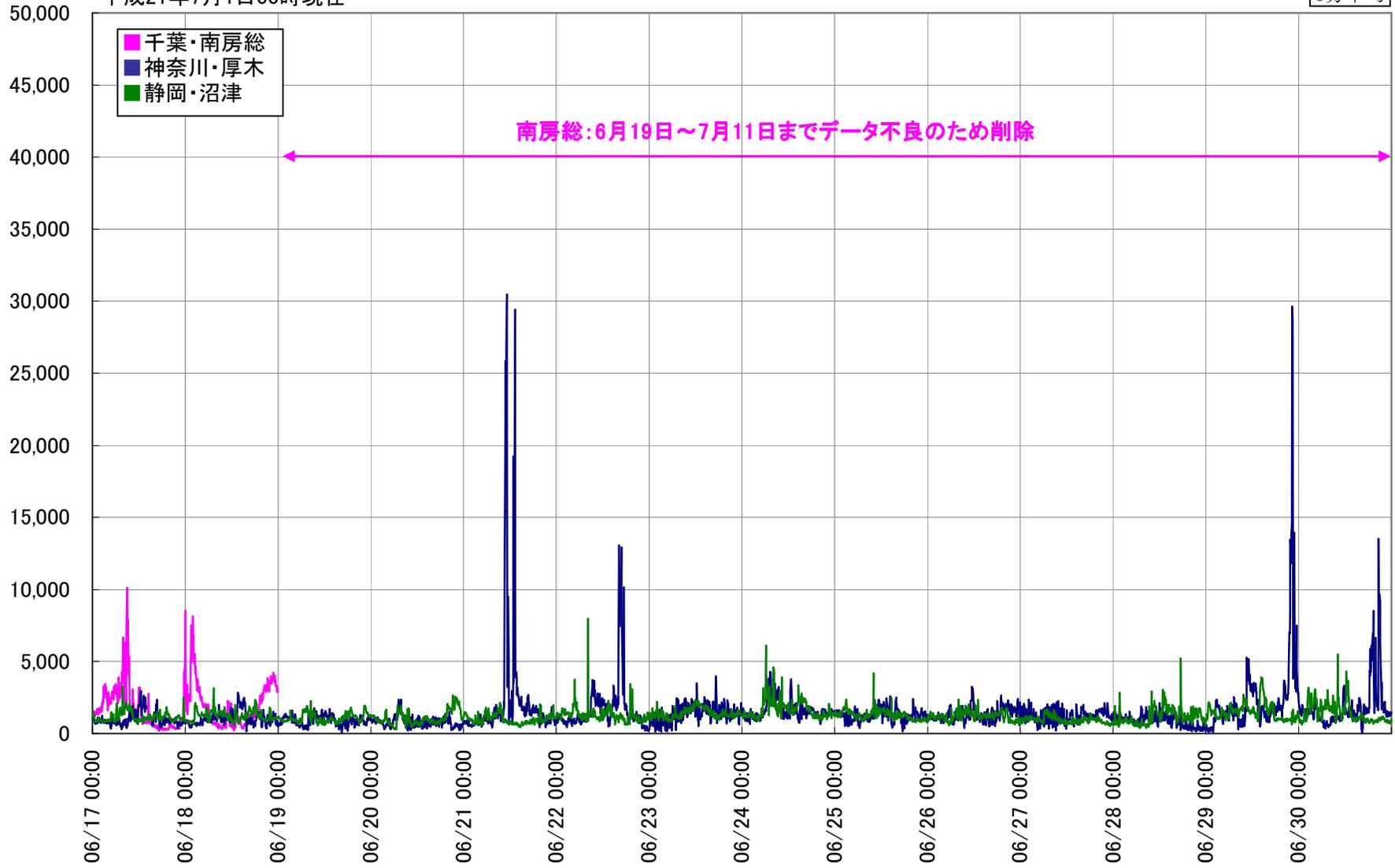
平成21年6月17日00時現在

5分平均



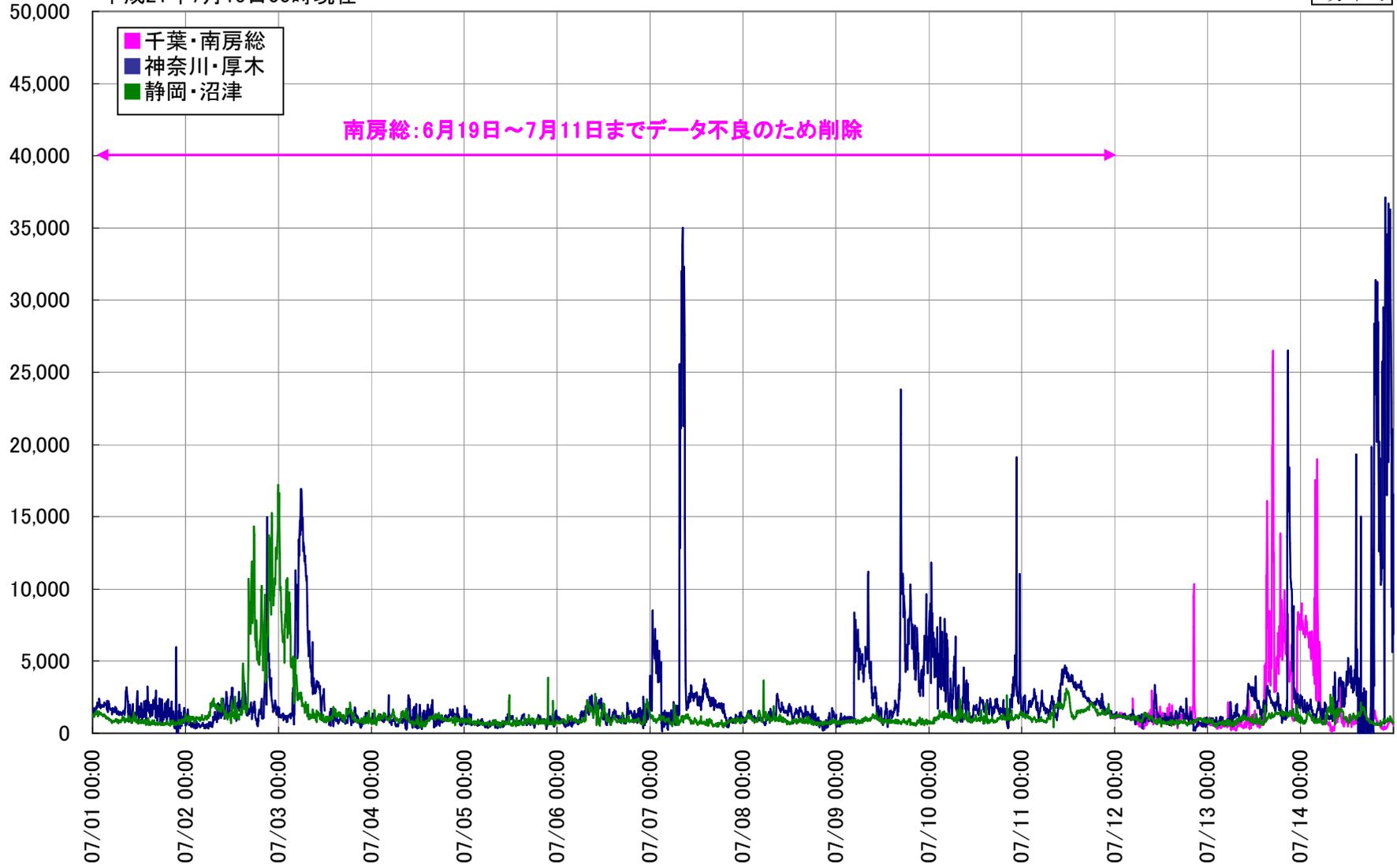
平成21年7月1日00時現在

5分平均



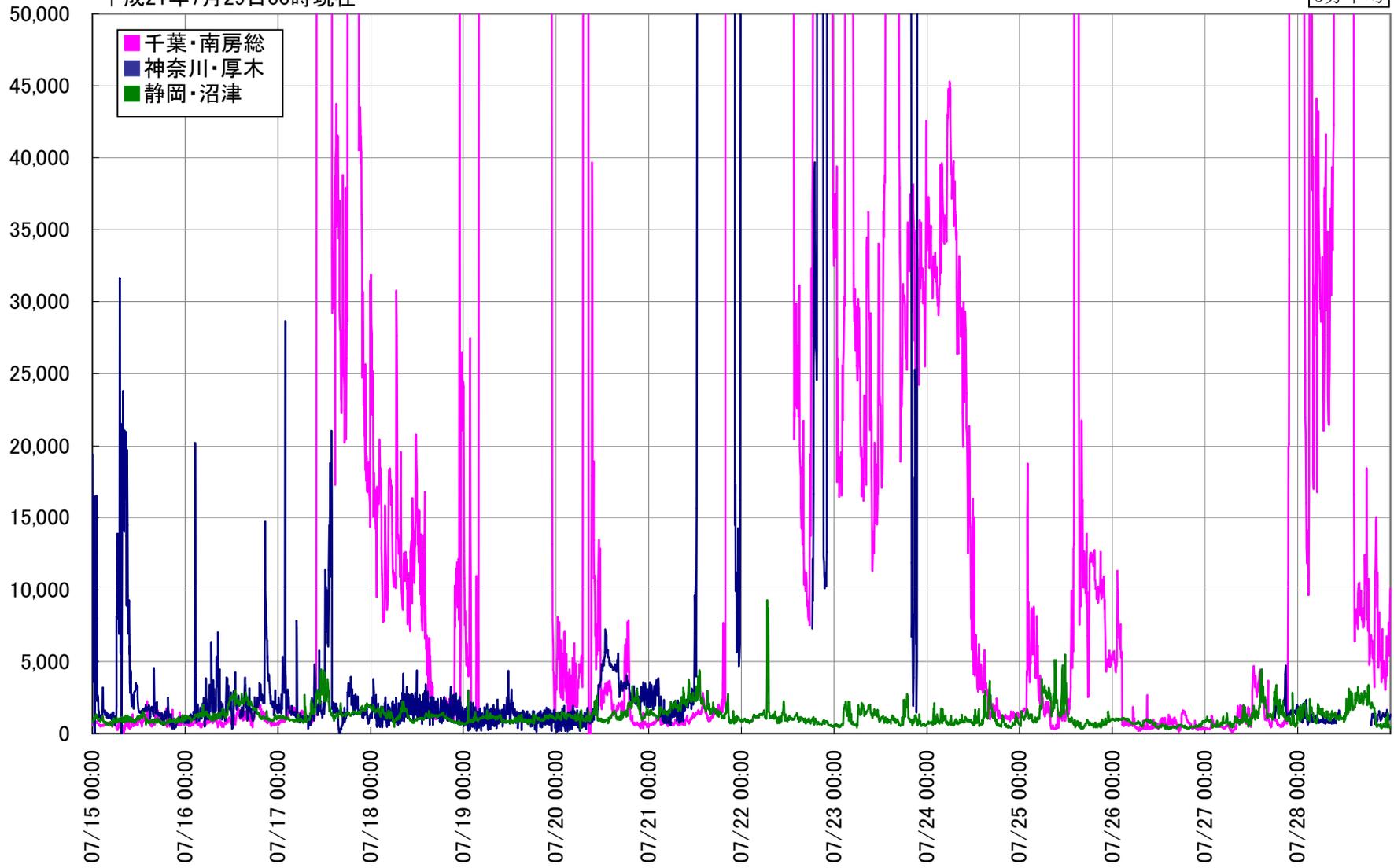
平成21年7月15日00時現在

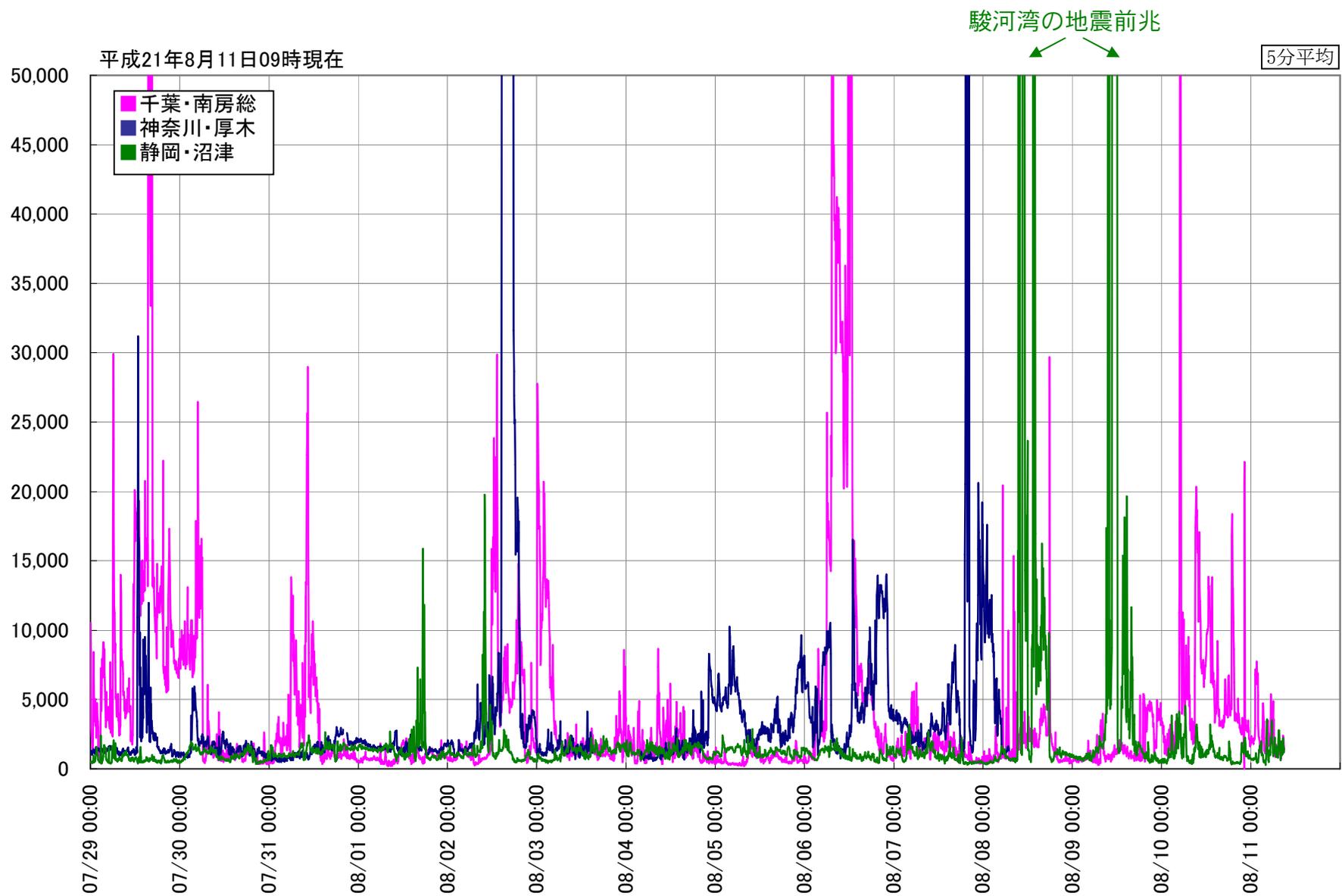
5分平均



平成21年7月29日00時現在

5分平均

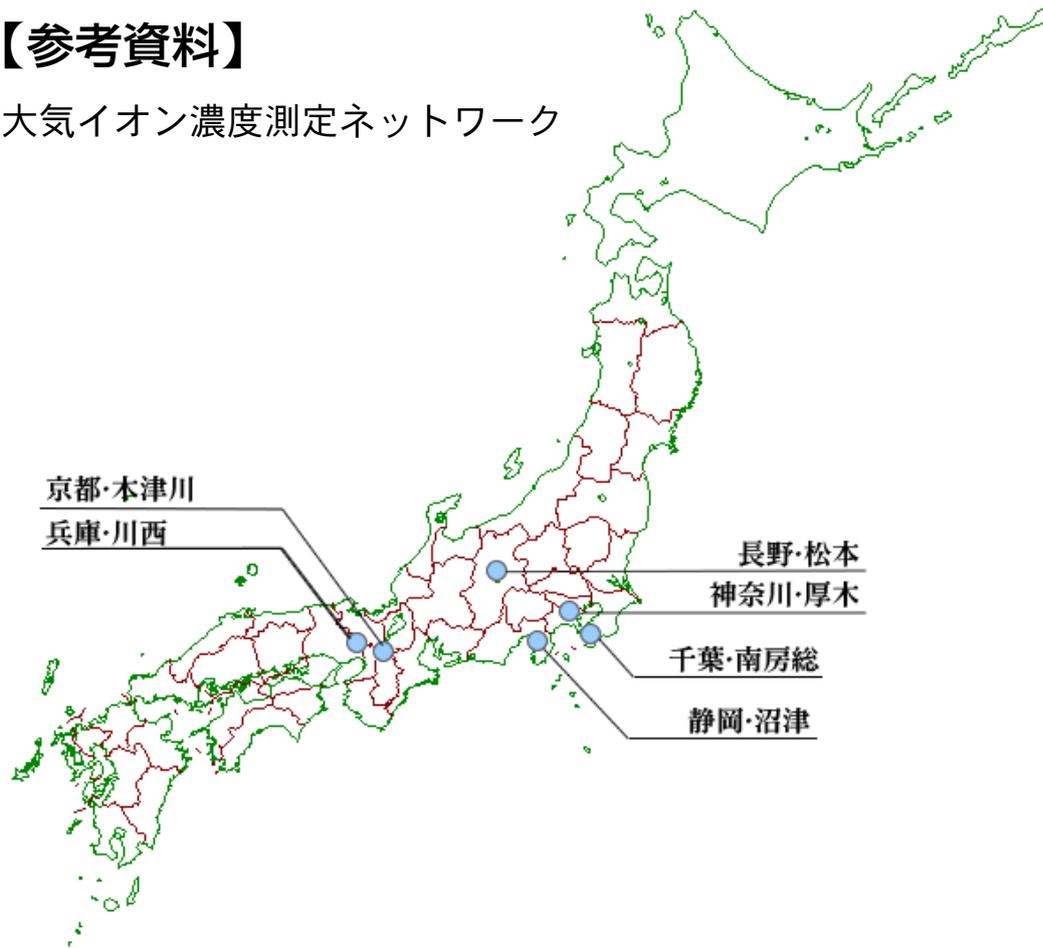




データ提供：富士通株式会社沼津工場、神奈川工科大学工学部矢田直之研究室

【参考資料】

大気イオン濃度測定ネットワーク



大気イオン法で前兆を捉えた主な事例

地震名	発震年月日	規模	最大震度	地震前時間	感知した測定点数	最寄り測定点までの距離
鳥取県西部地震	2000/10/06	M7.3	6強	約106日	1	83km
芸予地震	2001/03/24	M6.7	6弱	約7日	1	130km
紀伊半島南東沖地震	2004/09/05	M7.4	5弱	約25日	3	343km
新潟県中越地震	2004/10/23	M6.8	7	約11日	1	206km
福岡県西方沖地震	2005/03/20	M7.0	6弱	約3日	1	361km
千葉県北西部	2005/07/23	M6.0	5強	約7日	2	73km
伊豆半島東方沖	2006/04/21	M5.8	4	約12日	3	41km
和歌山県北部	2006/05/15	M4.5	4	約4日	3	45km
千葉県南部	2006/05/20	M4.7	3	約9日	2	21km
大分県西部	2006/06/12	M6.2	5弱	約25日	5	290km
能登半島地震	2007/03/25	M6.9	6強	約5時間	1	307km
三重県中部	2007/04/15	M5.4	5強	約32時間	1	57km
愛媛県東予	2007/04/26	M5.3	4	約4日	2	95km
新潟県中越沖地震	2007/07/16	M6.8	6強	約11日	3	158km
茨城県沖	2007/05/08	M7.0	5弱	約16日	1	220km
岩手・宮城内陸地震	2008/06/14	M7.2	6強	約31日	1	417km
岩手県沿岸北部	2008/07/24	M6.8	6弱	約5日	1	514km